

細則様式第 4 号

論文審査及び最終試験結果報告書			
氏名	早狩 瑠子		
入学年度	平成 30 年度	学籍番号	18GG904
領域	総合リハビリテーション科学	分野	
審査委員	主査	吉田 英樹	
	副査	牧野 美里	
	副査	三崎 直子	
	副査	尾田 敦	

論文題目： 妊娠経過に伴う腰痛と姿勢および足部アーチの経時的変化との関連について

審査結果要旨：

本研究は、一般に腰痛発生に関連すると考えられる脊柱彎曲と骨盤傾斜といった姿勢と足部アーチの変化に着目し、妊娠経過に伴うこれらの経時的変化を明らかにすることを目的として、予備研究と 3つのステップを踏んで実施されている。まず安全な測定方法の確認（予備研究）ののち、妊婦の姿勢及び足部の経時的変化と腰痛の関連性の調査（研究 1）、女子大学生の妊婦体験ジャケット着用による物理的負荷に対する姿勢と足部の変化の調査（研究 2）、出産後 1 年までの姿勢と足部の経時的変化の調査（研究 3）が行われた。学位審査論文では系統的かつ過不足なく記述されていることが確認された。

結果としては、妊娠経過に伴い、①骨盤傾斜（前傾）角度が増加し、②足部アーチは扁平化するが、足部接地面積は減少し後足部荷重となること、③腰椎前彎が初期から中期にかけて一旦減少後に後期で増加に転じ、腰椎アライメントのみで対処している可能性があること、④子宮の解剖学的特徴から荷重量が右に偏位すること、⑤経産婦ほど腰痛が生じやすい可能性があること、などの知見を得た。さらに女性大学生が妊婦体験ジャケット（7.3kg）を着用すると、妊婦とは異なり、脊柱アライメント及び足部アーチの顕著な即時的变化が有意に生じたことから、妊婦は徐々に増加する子宮に対して少しずつ姿勢を変化させて適応していることが裏付けられた。しかしながら、出産後約 1 年においても、姿勢や足部の状態は妊娠初期の状態に戻っていない可能性が示された。これらの結果は、コロナ禍の影響により十分な被検者数を確保できなかったとはいえ、妊娠経過に伴う姿勢と足部の変化を経時的に計測した貴重な研究であり、当該専門分野における新知見を多く含み、今後の発展性も十分に期待されるものであり、学位（博士）論文として十分な内容と判断できる。

学位審査論文および学位審査会では本研究の意義や結果等が適切に提示され、申請者が自身の研究について十分に精通していることが確認されたこと、そして独立した研究者として研究を遂行できる能力と、高い倫理観を身に付けていることが伺えた。したがって、申請された学位審査論文は博士の学位に値すると判断した。

最終試験 令和 5 年 7 月 28 日

試験の結果は 合格 ・ 不合格 と判定する。